

<検討の経緯>

- ①スポーツ行政組織の知事部局への移管から12年が経過。以降、さまざまな取り組みを実施してきたが、依然として課題がある。
- ②10年後（令和13年）に奈良県において「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催予定（令和2年度内々定）
- ③奈良県のスポーツ振興のマスタープランである「奈良県スポーツ推進計画」（H30-R4）について令和4年度中に見直しを行う必要がある。

今後の国体開催までの10年間とその後を見据えた「奈良県が目指すべき方針」を固める。

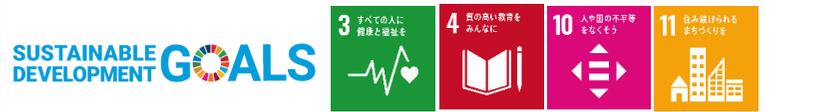
- 条例化・スポーツ振興ビジョンの検討（スポーツを通じてどのような未来を目指すのか、県のスポーツ施策を体系的に整理）
➡ 詳細な取り組み内容については、令和5年度からの次期「奈良県スポーツ推進計画」で策定
- 令和13年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿の検討

審議会での主な意見や課題

前々回の審議会	前回の審議会	その他県が考える課題
運動・スポーツに無関心な人へのアプローチ	QOL維持のための生涯スポーツの推進	
健康維持に必要な日常的な外出などの身近な運動推進	身近な場所で運動ができる環境整備	子育て・ビジネス世代の運動実施率低迷
スポーツ習慣化のための幼児向け運動・スポーツの推進	幼児期からの身体を動かせる環境整備	幼児のこころと体のはぐくみ、子どもの体力低下
都市部と農山間部など地域特性を踏まえた取り組みの検討	地域差を踏まえた取り組み	人口減少・少子高齢化
リアルとバーチャルの融合によるスポーツイベントの検討	デジタルの活用	非常時の運動・スポーツの取り組み方
障害のある人もない人も「誰もがスポーツする」環境づくり	インクルーシブな社会の創出	
	指導者の育成、質の向上／選手の育成／アスレティックトレーナーの育成	競技力強化の仕組み・システムが脆弱 少子高齢化によるスポーツを「支える」人の減少
	スポーツSDGs達成への取り組み	持続可能なスポーツの振興
	県民のスポーツ振興のための施設整備	スポーツ施設の老朽化及び機能・規模不足
		スポーツイベント開催のためのボランティアの育成

奈良県スポーツ振興ビジョンの柱

目指す方向性：奈良県スポーツの持続的な振興⇒「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」

課題	取り組みの柱	取り組み（例）
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康や運動に無関心な人へのアプローチ ◆ 身近な場所での運動の推進 ◆ 生涯スポーツの推進 ◆ 障害者スポーツの推進 ◆ 幼児向け運動の推進 ◆ 子どもの体力づくり 	<p style="text-align: center;">健康増進のためのスポーツの推進</p> <p style="text-align: center;">県民一人ひとりが生涯にわたり、その関心、適正等に応じて自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、心身の健康を維持・向上できることを目指す。</p> 	<p>県民参加の促進 ⇒ 県民のスポーツへの理解の促進</p> <hr/> <p>生涯スポーツの促進 ⇒ 総合型スポーツクラブ等を通じたスポーツへの参加機会の創出(ライフスタイル、ライフステージに応じたスポーツの推進)</p> <hr/> <p>幼児向け運動の推進 ⇒ 幼児期からの遊びを通じた運動習慣づくり</p> <hr/> <p>障害者スポーツの推進 ⇒ 障害への理解と障害者の社会参加の促進</p> <hr/> <p>子ども・青少年スポーツの推進 ⇒ 子どものスポーツ継続のための楽しさの実感(体力・運動能力の向上)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ アスリートの発掘、育成 ◆ スポーツをする人を支える人材の育成 ◆ スポーツボランティアの育成 	<p style="text-align: center;">奈良県のスポーツシーンを充実させる人材の育成</p> <p style="text-align: center;">スポーツの持つ効果や価値が発揮できるよう、アスリート、指導者、ボランティアなどの、これからの奈良県のスポーツ振興を担う人材を育成することを目指す。</p> 	<p>アスリートの育成 ⇒ 県民の憧れとなるアスリートの育成・支援(医科学分野との連携を含む)</p> <hr/> <p>指導者の育成 ⇒ 指導者の確保と研修制度等による育成(医科学分野との連携を含む)</p> <hr/> <p>ボランティアの育成 ⇒ イベント等の開催を支える人材の確保・育成</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ スポーツを通じた地域交流 ◆ スポーツ施設の老朽化及び機能・規模不足 ◆ スポーツ振興のための施設整備 ◆ デジタルの活用 	<p style="text-align: center;">スポーツ環境の整備と地域活性化</p> <p style="text-align: center;">県民のだれもがスポーツに親しめる環境づくりを目指す。また、奈良県の豊かな自然環境や歴史文化資源を活かしたスポーツイベント等の開催により、地域交流の促進及び地域の活性化に寄与することを目指す。</p> 	<p>地域の活性化 ⇒ 南部東部地域の交流人口の増加 地域に根ざしたスポーツイベントの開催支援 プロスポーツの観戦機会の充実</p> <hr/> <p>環境の整備 ⇒ 地域のにぎわいづくりの中核となるスポーツ施設の整備 市町村連携による施設の共同利用 ICTの活用による人材交流・指導者派遣・情報発信等</p>

R 1 3 年国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿

目指す大会の姿

より多くの県民が、「運動・スポーツに親しむ」「健康を増進する」、また「次世代を担う子どもたちが夢や希望を掴む」などのきっかけになるとともに、奈良県の魅力を全国へ発信する大会

方向性

- 自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、取り組む県民が増える
- 誰もが、いつでも、気軽に運動・スポーツに取り組み続け、また、地域の活力が向上し続けるような「資産」（人、文化、施設、環境、仕組み、経済力など）ができる
- 県内のトップアスリートの活躍が、県民のよろこびとロイヤリティを生み出すとともに、次世代のあこがれと希望になり、スポーツを「する」「みる」「ささえる」人を生み出す好循環ができる

目標		取り組み（例）
①	県民の誰もが日常生活の中で運動・スポーツに親しみ、気軽に取り組むようになること	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがいつでも運動・スポーツに親しめる身近な環境の整備 ・スポーツを「観る」「応援する」ことを通じた県民のスポーツに対する意識の向上
②	次世代の子どもたちが、スポーツを好きになり、ライフステージに応じてスポーツに関わるようになること	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものあこがれと感動を生み出し、応援したくなる、身近なトップアスリートの輩出
③	幅広いスポーツを支える人たちが、楽しさとやりがいを持ち、活躍を継続しやすくなること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育分野やスポーツ医・科学と連携し、トップアスリートだけでなく、健康増進目的の人など、幅広い人を支えられる指導者の育成
④	障がいの有無に関わらず、誰もが身近に運動・スポーツに親しめる環境、アスリートが活躍できる環境が整うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動の拠点となる高規格施設の整備 ・施設のユニバーサルデザイン化
⑤	自然や文化など地域の魅力がスポーツと繋がり、さらに新たな魅力を創出すること	<ul style="list-style-type: none"> ・県、市町村、競技団体がより連携・協力し、潜在力を活かした地域のにぎわいづくり

R 1 3 年国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿

○県として、国体開催を契機に取り組んでいきたい課題

テーマ	課題
「する・みる・ささえる」人に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動・スポーツに無関心な人、嫌いな人を減らす ・ 子ども達が県内でスポーツを楽しく、永続的に続けられる環境の整備 ・ 少子高齢化によるスポーツを支える人の減少への対応 ・ 障がい者スポーツに対する理解や、取り組む機会の充実化 ・ マイナー競技・障がい者スポーツ等の普及
スポーツ活動を支える施設や環境に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつでもどこでも誰でも運動・スポーツに親しめる身近な環境の整備 ・ 全国大会やプロスポーツが実施できる大規模施設の整備 ・ 県内施設の老朽化への対応 ・ 県内施設のユニバーサルデザイン化
奈良県のアスリートの育成と活躍に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもからトップアスリートまで、それぞれのニーズに応えられる指導者の育成、確保 ・ 指導者の質の向上 ・ 競技活動を続けられる環境の整備
県民の健康増進に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康が維持されるようなレベルの運動・スポーツを行っている人の増加 ・ 子育て世代やビジネス世代のスポーツ実施率の向上 ・ 子どもの体力向上
スポーツによる地域活性化に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの聖地づくり ・ 地域の潜在力とスポーツを繋いだ地域の新たな魅力の創出

R 1 3 年国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿

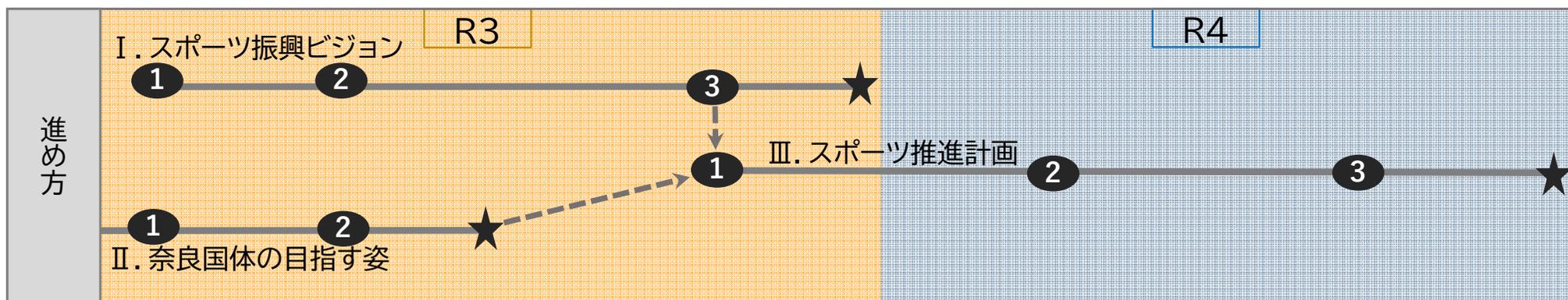
○県の現状【市町村（首長・担当課）、競技団体ヒアリング結果＜抜粋＞】

	人	組織	環境
市	<ul style="list-style-type: none"> 現在の課の体制では複数競技の開催は厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> 市スポーツ協会の高齢化が進んでおり、10年後の大会運営を懸念している 競技団体が大会でよく施設を利用している競技が、地元には根付いていない 	<ul style="list-style-type: none"> 優先して整備しなければならない他の施設があり、スポーツ施設の新設や改修も検討しているが、財政面で課題がある わかき国体時に整備された、施設が老朽化しているが、財政的に厳しいことから改修が進んでいない 大規模な施設の維持負担が重い 施設が不足しているが、今後も財政面を考えると新設は困難 複数施設を抱えることが難しく、統廃合を検討している
町村	<ul style="list-style-type: none"> 一昔前までは、多様な競技を行っていたが、今は若い人がおらず、競技が固定化（グラウンドゴルフなど）している 少子高齢化で地域でのスポーツ活動の継続が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 現スポーツ推進委員が高齢化しており、世代交代が課題 教育委員会は少数の職員で様々な事業を担当しており、スポーツ事業に集中する余裕がない 若者が少なく、様々な活動が高齢者中心 	<ul style="list-style-type: none"> 現スポーツ施設や設備の規模では、大会が開催できない 施設の老朽化が進んでいるが、施設の長寿命化に相当の費用と手間が必要で整備が難しい
競技団体	<ul style="list-style-type: none"> 県内にアスリートの受入体制（企業等）が少ないため、社会人になってから、県内の選手が県外に流出してしまう 全国募集でトップレベルの選手が集まっても、大学以降地元に戻ることが多いため、奈良県で指導者として残ることが少ない ジュニア期からの選手層が薄くなってきており、次世代の選手が育たない マイナー競技の場合、普及活動が進んでおらず、選手数も少ない 県内指導者の大半が退職の時期を迎えることから、指導者の確保が急務 一部、女性アスリートの普及、育成がうまく進んでいない競技がある 	<ul style="list-style-type: none"> 普及活動を行っているものの、競技人口が増えず、競技の強化につながりにくい 財政難のため、県外から有名な指導者を招聘できない 	<ul style="list-style-type: none"> 県内に施設が少なく、練習を増やすことができない 活動拠点が少ないため、学校関係者に負担のかかる教育現場で競技をせざるを得ない 練習時に必要な設備（道具）が不足していることから、普及、育成を積極的に行うことができない 子どもや親が求める環境が県内になく、有望な子どもは県外へ進学、就職し、県外流出が減らない

10年後とその先を見据え、奈良県がスポーツ振興を通じて目指すべき方針・姿（柱）について

○スポーツ推進審議会の議論テーマ

年度	テーマ	内容
R3	スポーツ振興ビジョン	スポーツを通じてどのような未来を目指すのか、県のスポーツ施策を体系的に行うための中長期的なビジョンとして、「取り組む柱」と各柱の取り組みについて議論する。
	奈良国体の目指す姿	令和13年度に奈良県で開催する「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催を契機としたスポーツ振興のあり方及びスポーツ振興の基盤・仕組みづくりについて議論する。
R4	スポーツ推進計画	令和3年度にとりまとめた「スポーツ振興ビジョン」に基づく実施計画として、令和5年度～9年度(5年間)のスポーツ推進計画を策定する。



R3年度

- 1回目 5月28日 (奈良県が取り組むべき方針（柱）・姿について、ご意見を伺う)
- 2回目 8月27日 (1回目のご審議を踏まえた方針案と国体の目指す姿を提示し、ご意見を伺う)
- 3回目 2月頃予定 (2回目のご審議を踏まえた方針と、計画策定への指標や内容についてご意見を伺う)

R4年度

- 1回目 7月頃予定 (計画の骨子案を提示しご意見を伺う)
- 2回目 11月頃予定 (計画内容について提示しご意見を伺う)